

令和3年度野木町男女共同参画標語・ポスター 最優秀作品決定!!

野木町では、日常生活や学校・社会における男女共同参画について考え、一層の理解を深めることを目的に、毎年男女共同参画に関する標語及びポスターを募集しています。
今年度は11月5日(金)に審査会を開催し、最優秀作品が決定いたしました。

◆ポスターの部



新橋小学校6年 内田 みのりさん

◆標語の部

「らしさ」とは 性別超えて 守るもの (郡司 みどりさん)

野木町男女共同参画都市宣言

平成24年3月

1. わたしたちは男女がお互いの人権を尊重し、あらゆる分野で平等に参画できるまちをつくります。
1. わたしたちは男女がお互いに自分らしさを発揮し、社会の一員として共に協力することができるまちをつくります。
1. わたしたちは男女が共に家庭、学校、地域及び職場などで支え合う、思いやりあふれたまちをつくります。

問生活環境課 ☎ (57) 4132

広報連絡委員レポート№.428



思い出の抽斗^{ひきだし}

広報連絡委員 富田 英俊

自称「団塊の世代」の私もすでに高齢者の仲間入り。これからの人生には少なからぬ不安を感じる。さらに、COVID-19の終息もまだ先が見えず、不安に拍車がかかる。コロナ禍の生活で、おうち時間が大幅に増えた。今では、ネット検索が生活の一部になっている。

書店で一冊の本を見つけた。「人生は青春、朱夏、白秋、玄冬と4つの季節が巡っていくのが自然の摂理である」(五木寛之『孤独のすすめ』)とある。「玄冬の高齢者が、青春のような生き方をするには無理がある」と続く。私自身孤独ではないが共感できる。

さらに、「回想は誰にも迷惑をかけない。繰り返し昔の楽しみかたを回想し、それを習慣にする。そのことで錆びついた思い出の抽斗が開くようになり、懐かしい記憶が蘇るようになる」という一文もある。「昔はよかった」をマイナスと捉えず、これまでの経験や思いを元気の源として、プラス

に考えようという発想であり、これからの人生を元気で、楽しく生きるヒントになる。

思い出の抽斗を開くツールは、今の生活サイクルの中にあっただ。学生時代に読んだ五木寛之さん、きたやまあさむさんなどの本が、ページが色褪せて本棚で眠っている。もう一度読み直すことで、思い出の抽斗を開けよう。

そして、ネットを検索すれば、オールディーズの動画が見られる。1950年代後半から60年代にかけて流行った欧米の音楽で、瞬時に無理せず、「青春」にタイムスリップできる。青春真っただ中で、ビートルズやベンチャーズを聴いた。グループサウンズもある。あげればきりが無い、どれひとつ聴いても懐かしさ満載である。

人生百年時代という。繰り返し思い出の抽斗を開けて、懐かしさに浸り、元気をもらい、「玄冬」をポジティブに生きたい。

